

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-161167

(43)Date of publication of application : 18.06.1999

(51)Int. Cl.

G09C 1/00

H04L 9/08

(21)Application number : 09-341951

(71)Applicant : PUMPKIN HOUSE:KK

(22)Date of filing : 28.11.1997

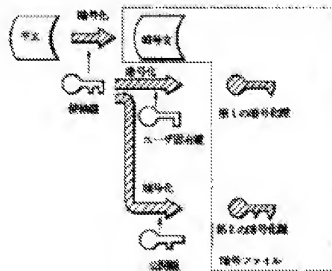
(72)Inventor : SASAKI MINORU

(54) DEVICE AND METHOD FOR CIPHERING AND RECORDING MEDIUM WHICH RECORDS CIPHERING PROGRAM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To decode the ciphered sentence data, which are ciphered by a user, by a third party who is other than the user and is given a secret key.

SOLUTION: Every time plain sentence data are ciphered, a throwaway key is generated. Then, the data are ciphered employing the generated key and ciphered data are generated. Then, the throwaway key is ciphered by a user intrinsic key and an open key and first and second ciphering keys are generated. Then, the ciphered data and the first and the second ciphering keys are stored in a ciphering file. When a user decipheres the ciphered sentence data, the user obtains the throwaway key by decoding the first ciphering key using the user intrinsic key. If the third party, who is given a secret key, decodes the ciphered sentence data, the party obtains the throwaway key by decoding the second ciphered key using the secret key. Then, using the throwaway key, the ciphered sentence data are decoded into the plain sentence data.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-161167

(43) 公開日 平成11年(1999) 6月18日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I		
G 0 9 C 1/00	6 3 0	G 0 9 C 1/00	6 3 0 Z	
			6 3 0 A	
			6 3 0 E	
H 0 4 L 9/08		H 0 4 L 9/00	6 0 1 Z	
			6 0 1 A	
審査請求 未請求 請求項の数 9 F D (全 6 頁) 最終頁に続く				

(21) 出願番号 特願平9-341951

(22) 出願日 平成9年(1997)11月28日

(71) 出願人 393009356

株式会社バンブキンハウス

神奈川県厚木市飯山1620番地の1 アメニ
ティヒル本厚木717

(72) 発明者 佐々木 實

神奈川県厚木市飯山1620番地の1 アメニ
ティヒル本厚木717 株式会社バンブキン
ハウス内

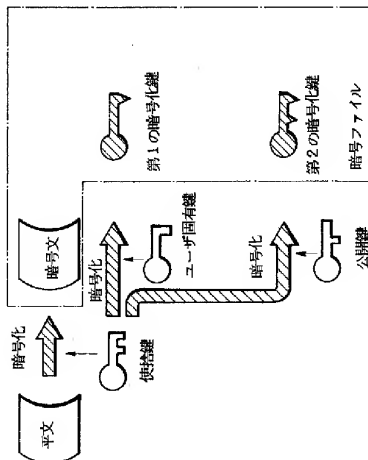
(74) 代理人 弁理士 牛久 健司

(54) 【発明の名称】 暗号化装置およびその方法ならびに暗号化プログラムを記録した記録媒体

(57) 【要約】

【目的】 ユーザが暗号化した暗号文データをユーザ以外の秘密鍵を寄託された第三者が復号できるようにする。

【構成】 平文データを暗号化することにより、使捨て鍵を生成する。生成された使捨て鍵を用いて平文データを暗号化し、暗号文データを生成する。使捨て鍵をユーザ固有鍵および公開鍵で暗号化し、第1の暗号化鍵および第2の暗号化鍵を暗号ファイルに格納する。ユーザが暗号文データを復号するときには、ユーザ固有鍵を用いて第1の暗号化鍵を復号することにより使捨て鍵を得る。秘密鍵を寄託された第三者が暗号文データを復号するときには、秘密鍵を用いて第2の暗号化鍵を復号することにより使捨て鍵を得る。使捨て鍵を用いて暗号文データを平文データに復号する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 平文データを暗号化するために用いられるデータ暗号用鍵を用いて平文データから暗号文データを生成するデータ暗号化手段、上記データ暗号化手段において用いられるデータ暗号用鍵を、ユーザ固有鍵を用いて暗号化して第1の暗号化鍵を生成する第1の暗号化鍵生成手段、および上記データ暗号化手段において用いられるデータ暗号用鍵を、公開鍵を用いて暗号化して第2の暗号化鍵を生成する第2の暗号化鍵生成手段、を備えた暗号化装置。

【請求項2】 上記データ暗号用鍵を生成する暗号用鍵生成手段をさらに備え、上記データ暗号化手段が、上記暗号用鍵生成手段により生成されたデータ暗号用鍵を用いて上記平文データから上記暗号文データを生成するものである、請求項1に記載の暗号化装置。

【請求項3】 上記ユーザ固有鍵を生成するユーザ固有鍵生成手段をさらに備え、上記第1の暗号化鍵生成手段が、上記ユーザ固有鍵生成手段により生成されたユーザ固有鍵を用いて上記第1の暗号化鍵を生成するものである、請求項1に記載の暗号化装置。

【請求項4】 上記ユーザ固有鍵を用いて上記第1の暗号化鍵を復号し、上記データ暗号用鍵を得る第1の暗号化鍵復号手段、および上記第1の暗号化鍵復号手段による復号により得られた上記データ暗号用鍵を用いて上記暗号文データを平文データに復号するデータ復号手段、をさらに備えた請求項1に記載の暗号化装置。

【請求項5】 上記公開鍵に対応する秘密鍵を用いて上記第2の暗号化鍵を復号し、上記データ暗号用鍵を得る第2の暗号化鍵復号手段、および上記第2の暗号化鍵復号手段による復号により得られたデータ暗号用鍵を用いて暗号文データを平文データに復号するデータ復号手段、をさらに備えた請求項1に記載の暗号化装置。

【請求項6】 平文データを暗号化するために用いられるデータ暗号用鍵を用いて平文データから暗号文データを生成し、上記データ暗号用鍵を、ユーザ固有鍵を用いて暗号化して第1の暗号化鍵を生成し、上記データ暗号用鍵を、公開鍵を用いて暗号化して第2の暗号化鍵を生成する、暗号化方法。

【請求項7】 平文データを暗号化するために用いられるデータ暗号用鍵を用いて平文データから暗号文データを生成し、上記データ暗号用鍵を、ユーザ固有鍵を用いて暗号化して第1の暗号化鍵を生成し、上記データ暗号用鍵を、公開鍵を用いて暗号化して第2の暗号化鍵を生成するように暗号化装置のコンピュータを制御するためのプログラムを格納したコンピュータが読み取り可能な記録媒体。

【請求項8】 ユーザ固有鍵を用いて上記第1の暗号化鍵を復号して上記データ暗号用鍵を得、復号により得られたデータ暗号用鍵を用いて上記暗号文データを上記平文データに復号する、請求項7に記載のコンピュータが

読み取り可能な記録媒体。

【請求項9】 上記公開鍵に対応する秘密鍵を用いて、上記第2の暗号化鍵を復号して、上記暗号用鍵を得、復号により得られたデータ暗号用鍵で上記暗号文データを平文データに復号する、請求項7に記載のコンピュータが読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【技術分野】この発明は、暗号化装置および暗号化方法ならびにコンピュータが読み取り可能な記録媒体に関する。

【0002】

【発明の背景】暗号装置における平文の暗号化および暗号文の復号には、共通鍵暗号システムによるものと、公開鍵暗号システムによるものとが知られている。

【0003】共通鍵暗号システムでは、平文の暗号化に用いる鍵と暗号文の復号に用いる鍵とが同一である。

【0004】公開鍵暗号システムでは、公開鍵を用いて平文を暗号化し、暗号化に用いられた鍵と対をなす秘密鍵を用いて暗号文を復号する。

【0005】このような暗号システムにおいては政府から暗号文の復号のための鍵を要求された場合に、その要求に応じることが可能にすることが望まれている。

【0006】

【発明の開示】この発明は、必要に応じて第三者が暗号文を復号できるようにすることを目的とする。

【0007】この発明による暗号装置は、平文データを暗号化するために用いられるデータ暗号用鍵を用いて平文データから暗号文データを生成するデータ暗号化手段、上記データ暗号化手段において用いられるデータ暗号用鍵を、ユーザ固有鍵を用いて暗号化して第1の暗号化鍵を生成する第1の暗号化鍵生成手段、および上記データ暗号化手段において用いられるデータ暗号用鍵を、公開鍵を用いて暗号化して第2の暗号化鍵を生成する第2の暗号化鍵生成手段を備えていることを特徴とする。

【0008】この発明は、上記暗号化装置に適した方法も提供している。すなわち、平文データを暗号化するために用いられるデータ暗号用鍵を用いて平文データから暗号文データを生成し、上記データ暗号用鍵を、ユーザ固有鍵を用いて暗号化して第1の暗号化鍵を生成し、上記データ暗号用鍵を、公開鍵を用いて暗号化して第2の暗号化鍵を生成する暗号化方法である。

【0009】この発明において平文データが暗号化された暗号文データを平文データに復号するときは、上記ユーザ固有鍵を用いて上記第1の暗号化鍵を復号し、上記データ暗号用鍵を得る。得られたデータ暗号用鍵を用いて暗号文データが平文データに復号される。

【0010】上記ユーザ固有鍵は、通常は暗号文データを生成したユーザが管理する。上述のようにユーザは上記ユーザ固有鍵を用いて暗号文データを平文データに

復号できる。

【0011】上記秘密鍵は、通常は、メーカ、販売店が管理し、メーカ、販売店から寄託された第三者は、上記秘密鍵を用いて暗号文データを平文データに復号できる。

【0012】平文データを暗号文データに暗号化するときに用いられるデータ暗号用鍵は、平文データを暗号化することに新たに生成されるような上記使捨て鍵であることが好ましい。暗号化されるごとに使捨て鍵が生成され、生成された使捨て鍵を用いて平文データが暗号化されるので、特定の暗号用鍵を用いて暗号文データを生成する場合に比べ復号する権限のない者により暗号文データが復号されてしまう危険を低くできる。このため暗号文データの機密性を向上させることができる。

【0013】上記データ暗号用鍵または上記ユーザ固有鍵を生成し、生成された上記データ暗号用鍵またはユーザ固有鍵を用いて上記平文データから暗号文データを生成してもよい。

【0014】

【実施例の説明】図1は、この実施例による暗号化復号装置の電気的構成を示すブロック図である。

【0015】暗号化復号装置は、コンピュータ1を含む。コンピュータ1にはデータを表示するための表示装置2、バスを介して入力を受け付けるための入力装置（キーボード、マウスなど）3、データを一時記憶するための外部記憶装置4、ならびにフロッピー・ディスクFDに記録されたデータを読みとり、かつFDにデータを記録する第1のFDドライブ5および第2のFDドライブ6が接続されている。

【0016】暗号化復号装置においては、暗号化復号装置のユーザが平文データを暗号化し、暗号化によって得られた暗号文データをユーザが復号できるとともに、ユーザ以外の特定の秘密鍵を寄託された第三者が暗号文データを復号できる。

【0017】図2は、暗号化復号装置によって実行される暗号化処理の概要を鍵の動きを中心に示すものである。図3は、ユーザによって実行される復号処理の概要を鍵の動きを中心に示すものであり、図4は、ユーザ以外の秘密鍵を寄託された第三者によって実行される復号処理の概要を鍵の動きを中心に示すものである。図5および図6は、ユーザによって実行される暗号化復号処理の手順を示すフローチャート、図7は、秘密鍵を寄託された第三者によって実行される復号処理の手順を示すフローチャートである。

【0018】まずユーザによって実行される暗号化復号処理について説明する。

【0019】図1、図2、図5および図6を参照して、ユーザによって第1のFDドライブ5に暗号化復号プログラムが格納された第1のFDが装着される。第1のFDドライブ5に装着された第1のFDが初期化されてい

るかどうかが判定される（ステップ11）。

【0020】第1のFDが初期化されていない場合は（ステップ11でNO）、入力装置3からユーザの名前が入力される（ステップ12）。また、第1のFDから読みとられた暗号化復号プログラムにしたがってコンピュータ1において第1の乱数および第2の乱数が生成される（ステップ13）。

【0021】入力装置3から入力された名前を表すデータと生成された第1の乱数を表すデータとがユーザ固有のIDとされる（ステップ14）。また、第2の乱数がユーザ固有鍵とされる（ステップ15）。

【0022】ステップ12から15の処理によりFDの初期化が終了する。

【0023】第1のFDドライブ5に装着された第1のFDがすでに初期化されていると（ステップ11でYES）、ステップ12から15の処理はスキップされる。

【0024】FDの初期化処理が終了する、または初期化済みのFDが第1のFDドライブ5に装着されると、外部記憶装置4に記憶されているファイルが読み込まれる（ステップ16）。読み込まれたファイルが平文データを表すものかどうかが判断される（ステップ17）。

平文データであれば（ステップ17でYES）、暗号化処理が実行される（ステップ18から22）。平文データでなければ（ステップ17でNO）、復号処理が実行される（ステップ23から26）。

【0025】平文データの暗号化を実行する場合には、暗号化に用いる使捨て鍵を生成するために乱数が生成される（ステップ18）。生成された乱数が使捨て鍵となる。生成された使捨て鍵を用いて外部記憶装置4から読み出された平文データが暗号化される。この暗号化により暗号文データが生成される（ステップ19）。

【0026】生成されたユーザ固有鍵を用いて使捨て鍵が暗号化される（ステップ20）。ユーザ固有鍵を用いて使捨て鍵が暗号化されることにより第1の暗号化鍵が生成される。

【0027】さらに、第1のFDに記憶されている暗号化復号プログラムにもとづいて公開鍵が読み出される。読み出された公開鍵を用いて使捨て鍵が暗号化される（ステップ21）。公開鍵を用いて使捨て鍵が暗号化されることにより第2の暗号化鍵が生成される。

【0028】ユーザID、第1の暗号化鍵、第2の暗号化鍵および暗号文データが暗号ファイルとして外部記憶装置4に格納される（ステップ22）。また第1のFDに記憶されている暗号化復号プログラムのバージョンを表す情報も暗号ファイルに記憶される。

【0029】次に生成された暗号文データをユーザが復号する処理について説明する。ユーザによる復号も、第1のFDに記憶されている暗号化復号プログラムにしたがって実行される。

【0030】主に図3および図6を参照して外部記憶装

置4から暗号ファイルが読み出される(ステップ17でNO)。暗号ファイルが読み出されると、ユーザは入力装置3からユーザIDを入力する。暗号ファイルに格納されているバージョン情報およびユーザIDと、第1のFDに記憶されているバージョン情報およびユーザが入力したユーザIDとが一致するかどうか判断される(ステップ23)。

【0031】一致すると、第1のFDに記憶されているユーザ固有鍵を用いて第1の暗号化鍵が復号される(ステップ24)。これにより平文データを暗号化するのに用いられた使捨て鍵が生成される。

【0032】使捨て鍵が生成されると、生成された使捨て鍵を用いて暗号文データが平文データに復号される(ステップ25)。生成された平文データは表示装置2に与えられ、平文データによって表される平文が表示装置上に表示される(ステップ26)。

【0033】バージョン情報およびユーザIDが一致しないと(ステップ23でNO)、そのバージョン情報が格納されている暗号ファイルに含まれる暗号文データを復号できずに表示装置4にエラーが表示される(ステップ23)。

【0034】この実施例による暗号化復号装置は、暗号化を実行したユーザが暗号文データを復号することができるだけでなく、ユーザ以外の秘密鍵を寄託された第三者もユーザが暗号化した暗号文データを復号することができる。

【0035】次にユーザによって暗号化された暗号文データを秘密鍵を寄託された第三者が復号する場合について説明する。

【0036】ここでは、図1に示す暗号化復号装置を用いて秘密鍵を寄託された第三者が暗号文データを平文データに復号するものとする。もちろん、秘密鍵を寄託された第三者が有する復号装置を用いて暗号文データを復号することができるのはいうまでもない。公開鍵方式による復号プログラムおよび暗号化復号装置において第2の暗号化鍵の生成に用いられた公開鍵に対応する秘密鍵が記憶されているFDが第2のFDドライブ6に装着される。第2のFDドライブ6に装着されたFDに記憶されている復号プログラムにしたがって復号処理が実行される。

【0037】図4および図7を参照して、外部記憶装置4に暗号ファイルが記憶されている。外部記憶装置4から暗号ファイルが読み出され(ステップ31)、読み出されたファイルが暗号文データかどうか判断される(ステップ32)。

【0038】暗号ファイルの場合(ステップ32)、暗号ファイルに記憶された暗号プログラムのバージョン情報とユーザIDが、復号プログラムのバージョン情報とユーザIDと一致するかどうか判定される(ステップ33)。

【0039】一致すると(ステップ34)、暗号ファイルに記憶されている第2の暗号化鍵が読み出される。また第2のFDに記憶されている秘密鍵が読み出される。第2のFDから読み出された秘密鍵を用いて、暗号ファイルから読み出された第2の暗号化鍵が復号される(ステップ34)。これにより平文データを暗号文データに暗号化するときに用いられた使捨て鍵が生成される。

【0040】暗号ファイルから暗号文データが読み出され、生成された使捨て鍵を用いて暗号文データが復号される(ステップ35)。この復号により平文データが生成される。

【0041】生成された平文データによって表される平文が表示装置4に表示される(ステップ36)。暗号文データを生成したユーザが暗号文データを平文データに復号するためのユーザ固有鍵がわからなくてもユーザ以外の秘密鍵を寄託された第三者が暗号文データを復号することができる。

【0042】暗号ファイルから読み出した暗号文データを生成したときの暗号化プログラムのバージョンと第2のFDドライブ6に装着された第2のFDに記憶されている復号プログラムのバージョンとが一致しないときには復号ができない。このときには、表示装置4には復号ができないことを示すエラーが表示される(ステップ37)。

【0043】上述の実施例においては、暗号ファイルは外部記憶装置4に記憶されているが、FDに記憶するようにしてもよい。

【0044】また、秘密鍵を寄託された第三者による暗号文データの復号は公開鍵方式を用いているので、暗号文データの機密性を高く保持することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】暗号化復号装置の電気的構成を示すブロック図である。

【図2】暗号化の概要を示す。

【図3】ユーザによる復号の概要を示す。

【図4】ユーザ以外の秘密鍵を寄託された第三者による復号の概要を示す。

【図5】ユーザによる暗号化復号処理の手順を示すフローチャートである。

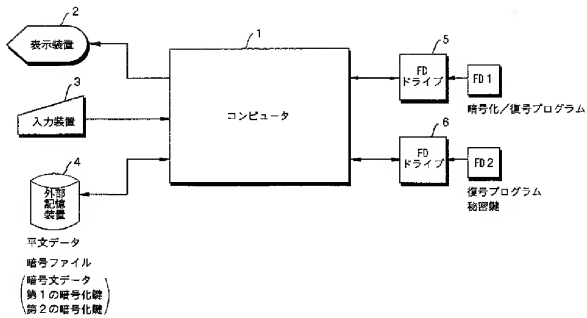
【図6】ユーザによる暗号化復号処理の手順を示すフローチャートである。

【図7】秘密鍵を寄託された第三者による復号処理の手順を示すフローチャートである。

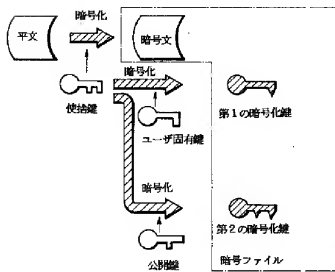
【符号の説明】

- 1 コンピュータ
- 2 表示装置
- 3 入力装置
- 4 外部記憶装置
- 5, 6 FDDドライブ

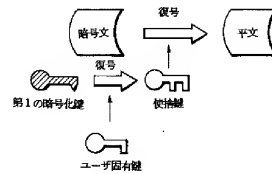
【図1】



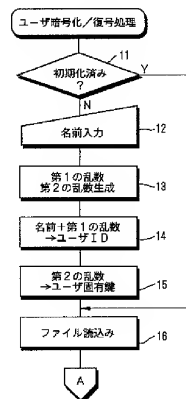
【図2】



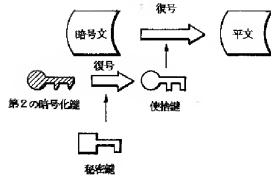
【図3】



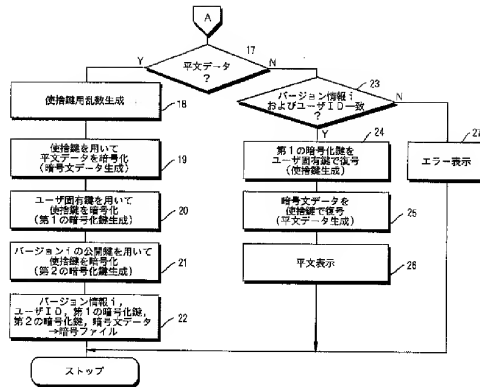
【図5】



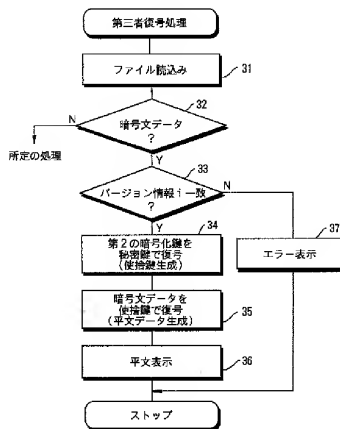
【図4】



【図6】



【図7】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

FI
H 04 L 9/00

6 0 1 E